

## リゾート地におけるレジャー・ダイバーの意識について

○千足 耕一（筑波大学大学院）

吉田 章（筑波大学体育科学系） 真竹 昭宏（筑波大学研究生）

スクーバ・ダイビング、海洋スポーツ、リゾート、レジャー活動、動機

### 【目的】

我が国における海洋スポーツのうち、スクーバ・ダイビングに対する注目度は年々増加し、また、今後実施したい海洋スポーツの種目の中でも高い割合を示している（酒井、山口、1989）。我が国のレジャーダイビングは1960年台に興隆の兆しを見せ、レギュレータ、残圧計やB・C（Bouyancy・Compensator＝浮力調整具）などの器材の進歩によって誰にでも可能なものになり、さらに器材のカラー化による女性の参加促進、余暇時間の増大や自然志向の高まり等の要素が加わることによって、1985年頃からダイビング人口は爆発的に増加しその数は推定35万人といわれている（海中開発技術協会調べ、1989）。

四方を海に囲まれた我が国においては、各地にダイビング・スポットが開設されており、沖縄を中心とする南西諸島、伊豆半島、伊豆諸島、南紀などは、とくに人気の集中している海域である。さらに1980年ごろから国内のみならず、国外のダイビングリゾートでのダイビングが盛んになってきている。この傾向はダイビング・ツアー関係への旅行業者の参入や国際経済における円高傾向により定着し、さらに1988年の法定労働時間に関する労働基準法の改正などの要因により今後ますます強くなっていくであろう。そこで本研究では、国外のダイビング・リゾートにおけるレジャー・ダイバーを対象としてダイビングを行なう動機について調査し、ダイバーの意識を明らかにすることを目的とした。

### 【方法】

本研究の調査対象者は、1990年7月16日から同年9月10日までの間、サイパンへレジャー・ダイビングを目的として訪れた、男子68名、女子62名の計130名である。この中より、Cカードを有し、かつインストラクターではない男子60名、女子60名の計120名を今回のサンプルとした。サンプル特性としては、平均年齢28.2（SD;5.4）歳、平均経験年数3.2（SD;3.4）年、平均経験ダイビング数53.7（SD;73）本であった。

調査方法としては、Beard & Ragheb（1983）がレジャーに対する動機を測定するために作成したLeisure Motivation Scale（LMS）を和訳したものにスクーバ・ダイビングの状況を考慮して修正を加えた32項目からなる質問紙を用いた。それぞれの項目に、「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階評定尺度を設け、動機の高い順から5点、4点・・・1点を与えた。このような調査用紙をサイパンにおいて配布・回収した。

### 【結果と考察】

#### 1. スクーバ・ダイビングの動機の特徴

「かなりあてはまる」「非常にあてはまる」の回答が顕著であった項目は、5.自分の好奇心を満足させるため(93.3%) 21.何か新しいことを発見するため(80.8%)、14.いろいろな人たちと新しい出会いがあるから(70.8%)、29.ストレスや緊張をやわらげるため(68.3

%)、20.日々の生活の忙しさやあわただしさから逃れるため(65.8%)、の順であった。これらよりダイバーは知的好奇心からダイビングをおこなっており、同時に休息・気晴らしを求めていることがわかる。また、ダイビングは旅行を伴うことが多く、同時に新しい出会いを求める傾向にあるといえるであろう。

## 2. 性別による動機の比較

性別が動機に関与する要因であるか判定するために、「知的」、「社会的」、「能力・熟達」、「刺激・逃避」の4因子得点について、男性、女性の2群間のt検定を行なった。

その結果「社会的」、「能力・熟達」、「刺激・逃避」の3因子において有意差がみられた。すなわち、「社会的」因子においては男性が女性に比べて有意に高く、「能力・熟達」因子においても男性が女性に比べて有意に高かった。また、「刺激・逃避」因子においては女性が男性に比べて有意に高い値を示した。(表-1)このことから男性は女性に比べて仲間作りや新しい出会いといった動機が強い傾向にあり、また比較的技術や能力に関心が高いことがわかる。そして、女性は日常生活の忙しさから逃れるといったような、気晴らしのレジャーとしてダイビングを行なう傾向が強いといえるであろう。

## 3 経験による動機の比較

ダイビングの経験と動機の関連をみるために、タンク経験本数50本以上の熟練者と50本未満の非熟練者の2群間のt検定を行なったところ、「社会的」、「刺激・逃避」の2因子において有意差がみられた。「社会的」因子においては非熟練者が熟練者に比べて有意に高く、「刺激・逃避」因子においては熟練者が非熟練者に比べて有意に高かった。(表-2)このことはダイビングの経験が豊富なダイバーほど息抜きや気晴らしという動機でダイビングを続けており、経験の少ないダイバーは、新しい出会いを求めるなどといった動機が強い傾向にあると考えられる。

表-1 性差による動機の比較

因子	男性 n=60		女性 n=60		t値
	M	SD	M	SD	
知的	3.34	1.17	3.32	1.26	0.26
社会的	3.17	1.01	2.86	1.21	5.25***
能力・熟達	2.95	1.11	2.80	1.18	2.25*
刺激・逃避	3.16	1.14	3.42	1.24	4.16***

\*P<.05 \*\*P<.01 \*\*\*P<.001

表-2 経験による動機の比較

因子	非熟練者 n=89		熟練者 n=31		t値
	M	SD	M	SD	
知的	3.36	1.23	3.26	1.19	0.85
社会的	3.08	1.11	2.84	1.12	5.31***
能力・熟達	2.85	1.16	2.93	1.10	-0.61
刺激・逃避	3.17	1.19	3.62	1.18	-8.18***

\*P<.05 \*\*P<.01 \*\*\*P<.001

### 【まとめ】

ダイビング・リゾートにおけるダイバーのダイビングを行なう動機は知的好奇心、休息・気晴らし、新しい出会いなどが大きな特徴である。しかし、ここで問題を感じるところは「能力・熟達」因子の得点が低く、安全で楽しいダイビングにとって本質であると思われる潜水技術や潜水能力の伸長ということに関してのダイバーの意識が比較的低いということである。技術、トレーニングや認識の不足等からくる潜水の事故を防止するためにもダイバーに「能力・熟達」に関する動機づけができるような指導が必要になってくると考えられる。